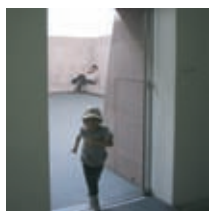


# 都市と芸術

## 神戸芸術工科大学

現代芸術の多くは都市との関係によって成立しています。そこには高度に情報が集積し変化し続ける都市で生活する私たちの感性を映し出すものとしての先端的な芸術の姿があります。この連続講座では、都市に深くかかわる芸術の事例や制作現場を紹介し、さらに批評や哲学に至るまで様々な視点から現代芸術の解説を試みます。



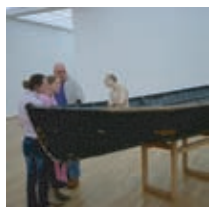
10月4日(土) 14:00-15:30

アートの現場

久富 敏明 (准教授)

美術館の柔軟な企画運営やビエンナーレ・トリエンナーレなど芸術展の新しい試みによって、現代アートは親しみを感じて身近な存在に変化しはじめています。観賞者が参加することによって成立する作品、何度でも自由に観賞できる作品、展示会場でアーティストが制作する作品などの事例を紹介し、展示空間や制作現場との関わりからつくり出される現代アートについて解説します。

写真/金沢21世紀美術館「タレルの部屋」: 恋人が待合せて佇み、子供が走る



10月11日(土) 14:00-15:30

リアリティをめぐって

小山 明 (教授)

現代アートは、これまでのようないわゆる「芸術」であることを超えて、現代に生きる私たちの感覚や物事の認識にかかわる領域にまでテーマを拡張し続けています。コンピュータネットワークや携帯電話の普及とともに失われた私たちの「リアリティ」もその重要なひとつのテーマとなっています。アートは現代の社会を映し出す鏡、もしくは私たちの意識をもういちどリセットする装置として機能しはじめています。

写真/「Ron Mueck展」ベルリン現代美術館



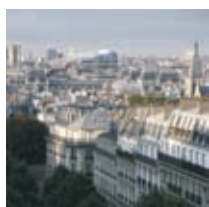
10月18日(土) 14:00-15:30

コレクションとアート

山崎 均 (教授)

三人の現代作家のユニークな仕事を取り上げます。コレクションをいつのまにかアートに変身させる横尾忠則、植物の種をたくさん集めて鉛や蜜ろうで封印する河口龍夫、「あたけぼね」という折りたたむことのできる立体の骨組みを考案した阿竹克人、です。アーティストという存在を、一風変わったかたちや仮想世界について目がいってしまう類稀な収集家、つまり「コレクター」として考えてみます。

写真/阿竹克人「あたけぼね ATAKEBONE」



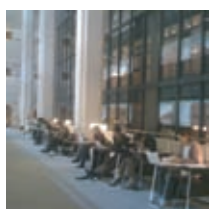
10月25日(土) 14:00-15:30

都市はアートに向かっている

岡部 憲明 (教授)

アート・芸術が一般に開かれたものになったのは、ヨーロッパでいえば19世紀半ばロンドンで万国博覧会がひらかれたあたりからと考えることができます。その後の芸術文化と都市の係わりの中で歴史都市パリに1977年に開館したパリ、ポンピドゥーセンターは、現代社会において芸術と大衆とを結びつけた象徴的計画といえます。19世紀からの歴史を振り返りながらポンピドゥーセンターの計画を中心に現代の都市と芸術文化の接点を探ります。

写真/パリの街並みとポンピドゥーセンター



11月1日(土) 14:00-15:30

アーカイブとブラウジング

鈴木 明 (教授)

インターネットを用いて、様々な資料に気軽にアクセスできる現在、図書館で資料を検索して手元に取り寄せて閲覧というスタイルとは、かなり異なった勉強や研究の方法があるはず。講義ではウェブ閲覧の方法だけではなく、YouTubeやブログを用いた自己表現や出版の事例を紹介し、一方では古典的な図書館アーカイブの歴史を見ながら、新しい図書館利用法を探っていきます。

写真/大英図書館のブラウジング: 手描き写本など稀観書棚の前でインターネット閲覧する利用者

### ユニティ10周年記念事業

神戸研究学園都市に集積する5大学・1高専が連携してコンソーシアムを形成し、その活動拠点としている共同利用施設「ユニティ」が誕生して、2008年度で10周年を迎えました。これを記念して、ユニティ及びユニティ加盟大学では、年間を通じて様々な記念事業を展開中です。

受講料 4200円/全5回

募集人数 80名

申込 ユニティ TEL 078-794-4970 先着順、随時受付

会場 ユニティ(大学共同利用施設)

〒651-2130 神戸市西区学園西町1-1-1 ユニバープラザ2F(地下鉄「学園都市駅」南隣)

※受講料はお送りする振込取扱票により郵便局でお支払い下さい。



◎JR、阪急、阪神各三宮駅で神戸市営地下鉄に乗換え「学園都市駅」下車徒歩1分